

令和5年度 自己点検報告書

学校法人駒場けやき学園 駒場幼稚園

1. 本園の教育目標

- 自ら感じ、考え、表現することができる子ども
- 心も体もたくましい子ども
- 友だちとかかわる中で、喜びを感じ、互いを生かしあうことができる子ども

2. 令和5年度に重点的に取り組む目標・計画

- 1) 保護者に園生活の様子を伝え、また実際に見てもらう機会を増やすなど、幼稚園における子どもたちの生活とそこで育つ姿を、教員と保護者で共有し、共通理解を深めていく。(継続)
- 2) 教職員が健全なワークライフバランスを保持したうえで職務に取り組めるよう、園は働き方改革を進める。教職員は労働時間の管理を各個人でも意識して取り組む。(継続)
- 3) 以下の取り組みについて東京都の「私立幼稚園教育水準向上支援事業費補助金」の申請を行い、重点的に取り組む。(継続)

【自然が持つ教育力を重んじ、園内外の環境を有効に生かし、豊かな経験を積み重ねる】

- ・植物を栽培し収穫する(米作りの体験、ウサギのエサになる薬物野菜、チューリップの栽培、園庭の柿や夏ミカンを収穫、サツマイモの苗を植え、収穫する)
- ・生き物を観察する(園庭の植物や昆虫)
- ・生き物を飼育する(ウサギ、カメ、熱帯魚、アカハライモリ、園庭でつかまえた昆虫)
- ・園外保育で近隣の公園に徒歩で訪れ、季節を味わい、楽しむ

【よく感じ、考え、表現し、生きる喜びを味わう】

- ・歌や踊りを園児が自ら楽しめる環境を備える(保育室やホールのピアノ、また和太鼓などの楽器を園児がいつでも使えるようにしておく、毎月の歌や行事の歌を担当と一緒に楽しむ、CDデッキや音源を用意しておき、ダンスをしたい園児が自ら使えるようにしておく)

【心と体を動かし、物事を創り出す過程を十分に体験する】

- ・保育室に多種多様な積み木を用意し、園児がのびのびと使って遊べる環境を整える
- ・モンテッソーリ教具での活動を定期的実施し、感覚、数、言語、日常生活、生物などのテーマで学びの機会を持つ

【文化に親しむ機会を持つ】

- ・日常の園生活や行事の中に、日本の季節の伝統行事を取り入れる
- ・日本の伝統芸能に触れる(和太鼓、獅子舞、お茶会)
- ・プロの演奏家を招いてクラシック音楽の演奏と、その楽器に親しむ
- ・絵本に親しむ

3. 令和5年度の取り組み(上記2.)についての自己点検評価(R6/3/19~3/28に実施)

2-1) 保護者とのコミュニケーション 〈通年〉 ※〈 〉は実施時期

- ・保育参観後に担任と保護者が直接話をする機会を設けたことで、保護者には子どもたちの園での様子の理解が深まり、担任も保護者の受けとめ方を直接知ることができ、有意義であった。
- ・また、降園後に担任は園庭に残り、保護者との日常的なコミュニケーションの機会を増やすよ

うに努めた。

・保護者会で担任が直接保護者に子どもたちの様子を伝える機会を重視し、動画や写真を使って保護者にも多くのことを感じ取ってもらえるよう努めた。

・写真を掲載したクラス便りと写真壁新聞（園生活の写真とコメント）の随時発行に努めた。また今年度の年長組では、その壁新聞を園舎内廊下の壁に残し、保護者が継続して目にする機会を増やした。

・父母の会の委員と、教員がなるべく直接話して相談を重ね、園生活における園の方針や意図について理解を深めてもらえるよう努めた。

・「おしゃべり会」（保護者のフリートークの会、園長参加）を月1回年間10回実施した。他の学年の保護者と気軽に話せることで、保護者同士の支え合い、助け合いの繋がりがうまれるきっかけとなってほしいと考えている。卒園の保護者にも随時声をかけ、参加してもらうことで、違う視点からの話を聞くことができ有意義であった。トークのテーマ（「小学校ってどんなところ？」「幼稚園の一年を振り返って」など）を決めて集うことで参加しやすさが増すことが分かったので、次年度に生かしたい。

2-2) 働き方改革 〈通年〉

・教職員間で、諸々の打ち合わせや会議を設けるタイミングや、作業の段取りを工夫して、業務の効率化に努めた。今年度も教職員側の働き方改革の努力に頼るところに終始し、制度的な改革は停滞している。現実的で効果的な制度改革が急がれる。

3-3) 東京都「私立幼稚園教育水準向上支援事業費補助金」の申請項目に関連して

【自然が持つ教育力を重んじ、園内外の環境を有効に生かし、豊かな経験を積み重ねる】〈通年〉

・《満三歳》「うさぎさんにごはんあげたい!」「探しに行こう」と園庭へ出るきっかけにもなっていた。

・《満三歳》玄関の水槽。園庭への出入りの際、「お魚で待ち合わせ」がいつしか暗黙の約束に担任が「おまたせ」と合流するまで、水槽にかじりつくようにして魚の動きに釘付けになって待っている。

・《年少》園庭で捕まえたダンゴムシ、あり、蝶の幼虫なども、何を食べるのか、など考えながら、毎日変化を楽しんだ。

・《年少》Aくんが「これはアリス（うさぎの名前）が好きな葉っぱだね」と言うので、保育者が「シロツメクサって言うんだよ」と名前を教えてあげた。次の日Aくんが「アリスが好きなシロツメクサ持ってきたよ!」と、葉っぱと名前が一致していた。自然と知識が身についていく様子がある。

・《年少》うさぎが餌を食べない、お水を飲まないなどの変化に気づき、「何で食べないの?」「お腹痛いの?」などと声をかけていた。保育者が「おばあちゃんのうさぎだからお腹が減っていないのかもしれない」と答えるも、子どもは、「お腹がいっぱいなんだよ!何が好きか調べてみる!」とうさぎの図鑑を調べ始めた。生き物が身近にいる事で、親しみを持って命の大切さに気付いたり、興味関心が出たりする様子がある。



・《年中》種から植えたので、芽が出て、生長する様を楽しみに観察していた。パセリになると、ウサギのところに何度も摘んでは食べさせに行き、喜んでいた。

・《年中》熱帯魚が赤ちゃんを何匹も産み、毎日小さな赤ちゃんが水槽の中にいるかな？と確認していた。餌をあげると赤ちゃんの口より餌が大きくて、「おおきくて食べられないね！どうするんだろう？」と心配しながら、見ていると、何度もつつきながら食べる姿を見て、「すごい！ちょっとずつ食べてるんだね！」と関心していた。

・《年長》電子拡大鏡を使い、幼虫が葉っぱを食べているところなど、虫の表情をより近くで見ることができた。肉眼では見ることの出来ない発見があり、興味をもつ姿があった。

・子どもたちの環境を整える為、また、保育に生かせるように、保護者にも協力してもらい、四季の花を園庭などに植えてもらった。

・年長組の米作りを今年度も実施。代かきから田植え、収穫、精米までを手作業で体験。脱穀機や粃摺り機も体験した。その後餅つきを行い、鏡餅を作り、正月明けに鏡開きを行った。

・昨年度年少組の3学期に屋上の畑にじゃがいもを植えた。今年度年中組に進級してから収穫。大きなじゃがいもをたくさん掘り出して驚いたり喜んだりの一ときを持った。

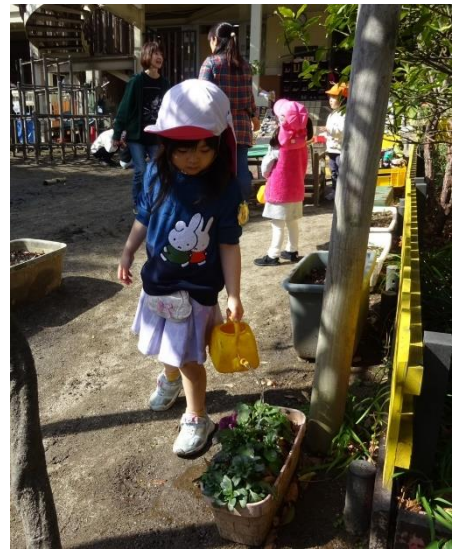
・園庭の柿、夏ミカンを収穫して食べる。青い小さい実の頃から、まだ甘くない？もう食べられる？と楽しみに待つ姿があった。

【よく感じ、考え、表現し、生きる喜びを味わう】〈通年〉

・《満三歳》ホールのパiano、たんぽぽ組2人の園児が音を楽しんでいた。その音を聞いた他児たちが音に合わせて踊り出していた。

・《年少》ピアノを習っていない子でも、自由に自分で楽譜を書いて演奏したり、絵本を楽譜に見立てて弾いていたり、その演奏に合わせて踊る子などがいた。ピアノを自由に遊びに取り入れられるので、よりピアノなど楽器に親しみを持つことができる。

・《年中》習っている人は、習っている曲を弾



いてみせてくれる。それに刺激を受けた人たちが代わる代わる弾いてみせてくれる。また、自分で思いのまま弾いてみせてくれる人もいる。

・《年長》遊びの中で、ピアノを弾く人が多くなってくると、今までピアノに触れていなかった人たちも興味をもち、ピアノを練習するようになる人もでてきた。また、ピアノが弾けることで友達に認められ、自信につながる人もいた。得意なことを楽しみ、自信をつけていく姿を見ると、その園児にとっては、必要不可欠な環境であったと感じる。

【心と体を動かし、物事を創り出す過程を十分に体験する】〈通年〉

《和久積み木》

・和久積み木で遊ぶ子どもたちの様子を見てみると、集中力や発想力があふれ、いつも驚かされる。こつこつ積み重ねる忍耐力もつくと思う。

・様々な形の積み木を用いて、イメージを広げながら遊ぶことを楽しんできた。年長組になると、複数の園児で協力して、1つのものを作り上げる楽しさを感じるようになった。和久積み木を通して、友達とのかかわりが広がったり、一つのことに集中したり、個人の育ちがみられるようになった。また、和久積み木のみで遊ぶ時間を設けたことにより、今まであまり遊んでいなかった園児が興味をもつようになり、次の日から和久積み木で遊ぶ人が増えることもあった。



・友だちと協力して、保育室の天井につくまで、和久積み木を巧みに積み上げることや電車が好きな人たちは駅や車庫をリアルに作ることにじっくり取り組む。ドミノ倒し、ビー玉転がしでは、どうしたらうまく転がるかお互いにイメージを出し合いながら、コースを作ることに試行錯誤して取り組む。

《モンテッソーリ教材》

・月曜日になると、「今日モンテッソーリある？」と聞く人がいるくらい、楽しみにしている園児が多かった。保育室とは別の環境で、じっくり好きなことに取り組める環境は、園児にとって学びの多いものであったと感じる。

・モンテの部屋では、講師がそれぞれの興味にあった教具を提案し、じっくり取り組める活動と何人かの友達と一緒に楽しめる教具の両方があり、それぞれに楽しんで過ごしていた。やりたいことがたくさんある人は、毎週月曜日を楽しみにしている。毎回、同じ教具に取り組む人、興味を持った教具を通して、友達同士の新しい出会いもあった。

【文化に親しむ機会を持つ】

《移動図書館》〈通年〉

・自分で選んだ絵本を持ち帰れる喜びは、とても大きい様子。家庭での親子で読み聞かせの時間を持つことにもつながる良い経験だと思う。

・毎回、絵本を借りる日をとっても楽しみにしていて、クラスのほとんどの人たちが借りている。興味のある絵本や自分の好きな絵本を自分で選んで借りている。そして、借りた本や読みたい本を講師に読んでもらうことも好きで、その時間をゆっ



たりと楽しんでいる。

・年少は3学期から移動図書館に参加。それ以降、保育室の本棚を変えるとすぐに気づいたり、友達に読んであげたり、本の部屋を通してより絵本への興味が出てきたようである。

《ブックトーク》〈通年〉

・ホームページ上での配信のため、保護者からの反響がフィードバックされにくい、絵本選びに迷ったり、その情報がほしいと考えている保護者（卒園保護者を含め）への情報発信のひとつとして、続けていきたい。

・在園の保護者と子ども、卒園保護者と幼稚園とのつながりにもなっている。

・ブックトークで紹介した絵本は購入し、その都度園の蔵書に加え、子どもたちが読めるようにしていることも伝えたり、時々アンケートを実施するなどして、保護者の反応を確認することも必要である。

《その他》

・4月末～5月初旬、毎年飾る鯉のぼりに、今年の年長組の分を、子どもたちの手形で飾り制作した。園庭に翻る姿を親子で楽しんでいた。

・毎年音楽会に来てくれる演奏家の方々が、今年も演奏と「音楽物語」の上演に加えて、丁寧に楽器を紹介してくれた。子どもたちの質問に答えたり、音を出してみたり、演奏の方法を教えてくださいなどの機会を持った。その後、年長組を中心に音楽会を再現する遊びが続いた。

・1月10日、正月明けの太鼓と獅子舞。奏者、演者の姿に親子で目を瞠る様子があった。獅子が怖くて泣く子どももいたが、その後の支障（登園を嫌がるなど）は無かった。翌日には年長組に手作り獅子舞が3頭生まれて、他の園児の頭を丁寧に噛んで回っていた。

・1月17日、年長組の卒園を祝して、初釜のお茶会を催した。緊張しながらも興味津々で臨み、お茶を点ててくださった先生に活発に質問をしていた。大人が、心を込め、礼儀を尽くして子どもたちを祝福する機会を今後も大切に行っていきたい。

・2月末～3月1日、雛飾りを玄関に出すと、興味津々に眺めたり、手に取ってみる。教師は、雛飾りの道具や人形は壊れやすいから、そっと扱うこと、人形の顔には素手で触らないことなど、触り方を伝えながら、道具や人形の説明をする。

4. 今後の課題

・園児の遊びは学期を追うごとに多様な展開を見せ、経験の内容が豊富になっていることがわかる。教師はそれを受けて、学年や個々の子どもの状況に応じて、園児の興味関心が一層深まったり、探求が進んでいくように教材の開発や教育環境の整備に取り組んでいきたい。

・園児募集の困難について、教育内容については在園保護者からの評価を得ているが、何が「選ばれない」要因になっているかを検証する必要がある。在園や卒園の保護者への聞き取り調査も行っていきたい。保護者は園に対し、大変協力的であるので、連携を強めていきたい。

・教育活動の内容を一層積極的に、在園保護者にも、外部にも発信をして、園に対する理解を深めることが重要である。

・教職員のワークライフバランスの改善には、園としての制度的な改革が率先して行われることが必要である。教育現場の流動性と制度の固定制とをどのように整合させながら成果を上げられる制度になるか、難しい課題であるが引き続き取り組んでいく。

・若手も、ベテランも、教員養成の研修は園として必須であることを再認識し、研修の機会を増やしていく必要がある。